

研究種目：基盤研究（A）

研究期間：2006～2009

課題番号：18251014

研究課題名（和文） アフリカ熱帯森林帯における先住民社会の周縁化に関する比較研究

研究課題名（英文） **Comparative Study on marginalization among indigenous people in tropical forest zones of Africa**

研究代表者

竹内 潔 (TAKEUCHI KIYOSHI)

富山大学・人文学部・准教授

研究分野：文化人類学

科研費の分科・細目：文化人類学・民俗学

キーワード：アフリカ、熱帯森林、先住民、周縁化

### 1. 研究計画の概要

近年、アフリカ中央部の熱帯森林帯に居住する狩猟採集民・狩猟農耕民は、紛争、開発、自然保護運動などの外部からの圧力を受けて、対外的な自立性や民族的アイデンティティの覚醒の契機を持たないまま、マイノリティ化しつつある。本研究では、社会、生業、儀礼、土地利用の諸側面の現況についてそれぞれの分野の研究者がアフリカ熱帯森林帯の諸地域で現地調査を実施し、具体的事例を精査するとともに、アフリカの他の地域の事例を調査して比較考察をおこなう。このような作業によって、アフリカ熱帯森林帯の先住民社会が直面している社会文化的周縁化の共通性と特殊性を抽出し、周縁化を産み出し、民族的アイデンティティの存立を脅かしている政治文化的メカニズムの詳細を明らかにする。

### 2. 研究の進捗状況

中央アフリカの熱帯森林帯の狩猟採集民・狩猟農耕民（アカ人、バカ人、ムブティ人、ボンゴ人）や東・南アフリカの狩猟採集民（トゥワ人、ハッザ人、サン人）などの先住民の社会経済的周縁化について、以下の知見が得られた。

(1) アフリカの狩猟採集民・狩猟農耕民は、集権的な社会組織や文化、排他的土地利用の観念を持っていないために、商業経済の流入や経済的混乱、内乱・紛争による政治社会的混乱、政府の定住化政策などの外部からの圧力に対して自律的に抗する強固な社会的基盤を形成することができず、国家と地域の双方において社会的最下層に位置づけられてジェノサイドや差別の対象となり、民族的ア

イデンティティ喪失の危機に直面している。(2) 中央アフリカの熱帯森林帯に居住する狩猟採集民・狩猟農耕民の一部は、大規模集落の形成、儀礼催行の強化、動植物や伝統医療の知識を基盤とした新たなアイデンティティ構築などを外部からの圧力に対する抵抗実践としておこなっているが、地域の枠組みを越えた政治経済システムに包摂されつつあるために、実践の効果は限定的であり、国家におけるマイノリティ化や不安定な社会的状況から脱却することが困難となっている。

(3) 東アフリカや南アフリカの狩猟採集民の一部は、定住化などの政府の政策や土地利用を巡る農耕民からの圧迫に対して、人権 NGO の介入と影響によって「先住民」の表象を用いて抵抗を展開し、狩猟採集民側の政治的態度の分化など複雑な政治的状況が生起している。中央アフリカにおいても人権 NGO が狩猟採集民の地位向上のための活動を始めているが、東アフリカや南アフリカの諸国家と比較して中央アフリカ諸国のガバナンスは脆弱であり、政治経済状況も不安定なために対抗軸が不明瞭であり、また、人権 NGO の活動が(2)に記した狩猟採集民自身の抵抗実践と結びついていないため、狩猟採集民による自律的な政治的運動はほとんど生じていない。

### 3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由) 研究の目標である中央アフリカ熱帯森林帯の狩猟採集民・狩猟農耕民の社会経済的周縁化の理解について、他の地域との比較も含めて多くの新しい知見を得て考察を進めることができている。

#### 4. 今後の研究の推進方策

平成 21 年度は本研究の最終年度であるので、現地調査によってさらに具体的事例についての知見を得るとともに、研究のとりまとめをおこなう。具体的には以下の作業をおこなう。

(1)2004 年まで継続的に現地調査をおこなってきたコンゴ共和国の狩猟採集民アカ人の社会経済的状況について現地調査を実施し、最近の変化を明らかにするとともに、すでに得られている中央アフリカ共和国のアカ人の状況と比較して、国家レベルの政治経済状況が狩猟採集民の周縁化にどのように関わっているか考察する。

(2)タンザニア共和国のハッザ人の政治経済状況についての調査を継続して、中央アフリカ諸国の狩猟採集民の状況との比較考察をさらに進める。

(3)研究のとりまとめのためのワークショップを以下のように開催する。

①中央アフリカ共和国のアカ人を調査研究しているアメリカ人研究者を含むアフリカ熱帯森林の狩猟採集民の研究者による周縁化についてのワークショップ。

②本研究のメンバー（研究代表者、研究分担者、連携研究者、研究協力者）によるワークショップ（2 回開催）

③本研究のメンバーと類似のテーマでアフリカ以外の地域の先住民を対象としている科学研究費プロジェクトのメンバーとの合同ワークショップ

(4)研究成果報告書の作成と公刊。

#### 5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 1 件）

池谷和信、「ボツワナの自然保護区とカラハリ先住民をめぐる政治生態学」、『アフリカ研究』、69、pp.101-112、2006、査読有り

〔学会発表〕（計 1 件）

竹内潔、” Scarcity value of the forest and local inhabitants、104<sup>th</sup> Annual meeting American Anthropological Association、2005.12.4、Washington D.C.

〔図書〕（計 1 件）

池谷和信（共著）、明石書店、『講座 世界の先住民 - フェースト・ピープルズの現在 - サハラ以南アフリカ』、2008、pp.269-284.

〔産業財産権〕

○出願状況（計 件）

○取得状況（計 件）

〔その他〕

科研費プロジェクトに関するホームページ  
[http://www.hmt.u-toyama.ac.jp/bunjin/staff/Takeuchi/Project&Survey/Tak\\_project.htm](http://www.hmt.u-toyama.ac.jp/bunjin/staff/Takeuchi/Project&Survey/Tak_project.htm)